

単元プランシート

児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を育成するために単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するか単元プランをデザインし、「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善を推進する。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元デザイン

主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった観点で単元をデザインする。

総則編小中 P77 参照

「見方・考え方」を働かせて

各教科等の「見方・考え方」を習得・活用・探究の過程の中で働かせて、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりする。「見方・考え方」を明らかにすることで、児童生徒が着目すべき対象や内容、対象へのアプローチの仕方など、具体的な授業展開に生かす。

総則編小中 P78 参照

思考力・判断力・表現力等の育成

「思考力、判断力、表現力等」とは、「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な力である。

課題を解決する過程は、

- ・ 物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・ 精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
- ・ 思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

等の問題発見・解決の過程を単元に設定する。

総則編小中 P78 参照

評価・改善

児童生徒の学習状況を単元のまとまりの中で適切に評価を実施できるように計画的にタイミングと方法等を設定する。その際、指導に生かす評価場面、総括的な評価に活かす場面を設定し、児童生徒にどのような資質・能力が身についたかを的確に捉え授業改善に生かす、児童生徒が自らの学習を振り返り次の学習に向かえるよう学習改善に生かす。

総則編小 P93 中 91 参照

組織的につなぐ

学校教育目標、目指す児童生徒像の具現化、学校で育成を目指す資質・能力を意識するとともに、カリキュラムマネジメントの視点から学校の校内研究との関わりを明らかにし、単元プランをデザインする。

単元をデザインする

目標を設定する

- 学校教育目標
- 目指す児童生徒の姿
- 教科の目標
- 学習指導要領における位置づけ
- 単元で育成する資質・能力
- 教科等における「見方・考え方」

教材・児童生徒の実態を把握する

- 主たる教材である教科書の内容吟味
- 教材に関する基礎的・基本的事項
- 教材の系統性
- 教えることと学ばせること
- 教科等の横断的な視点
- 児童生徒一人一人の学習のレディネス
既習事項の定着度
- 学習への関心・生活経験の有無
- 評価の観点からの実態
- 予想されるつまずき
- 児童生徒の思いや願い

指導の計画を組立てる

- 各場面での児童生徒の姿、教師の働きかけの意図を明確にする
- 児童生徒が考える場面と教師が教える場面
- 主体的に学習を見通したり、振り返る場面
- 自分の力で課題に向かう場面
- ペア・グループで対話をする場面
- 単元や領域のつながりを確認する

授業をデザインする（授業プランシート）

本時のねらい

- ねらいを基に評価規準を設定し、めざす児童生徒の姿を明らかにする
- 働かせたい見方・考え方を明らかにする
- 「目的（身に付けさせたい力など）」と「手立て（どのような学習活動）」を明らかにして設定する
- 「児童生徒にどのような力が身についたか」という学習の成果をどの場面、方法でみとるか明らかにして設定する

めあて・まとめ・振り返り

- 児童生徒が「なぜ」「～したい」等の課題意識をもたせる働きかけ
- 「まとめ」は児童生徒が「何を学んだのか」を明確にする
- 「振り返り」は、児童生徒が「到達すべき目標」に対して、見通しを持ち、「自分がどこまでできるようになったのか」「自分の学びを高めるために何が必要か」の視点でアウトプットする

本時の展開

- 児童生徒の「問い」を引き出すために、教材との出会いを工夫する
- 「何ができればよいのか」明確にして、解決への見通しを立てる
- 自分の考えをもたせる場面、自分の考えを広げ深める場面、「見方・考え方」を働かせる場面を意識する

学校で育てたい資質・能力

小学校第6学年

【単元名】資料の調べ方

データの活用 (7時間扱い)

単元の目標

- (1) 様々な統計の分析方法(代表値、ドットプロットなど)の使い方, 目的に応じた統計的な問題解決の方法を理解する。
- (2) 目的に応じて集めたデータの特徴に着目して, 問題の妥当性について批判的にとらえて考察し, 統計的に考察したり表現したりできる。
- (3) 統計的な問題解決の過程を振り返り, そのよさに気づき, 多面的に捉えて検討して考えたり, 生活や学習に活用したりしようとしている。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①平均値, 中央値, 最頻値などの代表値の意味や求め方を理解している。 ②度数分布を表す表やドットプロットや柱状グラフの特徴及びそれらの使い方を理解している。 ③目的に応じてデータを収集したり適切な手法を選択したりするなど, 統計的な問題解決の方法を知っている。	①身の回りにある不確定な事象から統計的に解決する問題として設定し, 計画を立て, データの集め方や分析の仕方を見通して必要なデータを集めている。 ②データの種類や項目の数を考え, 目的に応じて表やグラフに表し, 代表値や全体の分布の様子から, 問題に対する結論を判断している。 ③結論や問題解決の過程が妥当であるかどうかを, 別の観点や立場から批判的に考察している。	①データを収集したり分析したりした過程を振り返り, よりよい表現や結論の出し方を考えている。 ②統計的な問題解決のよさに気づき, 生活や学習に活用しようとしている。

教科指導計画より抜粋する。また、目標に準じた評価規準を作成し、指導に活かす評価をするのか、総括的な評価にするのか事前に計画する。

働かせる見方・考え方: データの分布に着目し, その傾向を読み取り批判的に考察して判断すること

単元構想

働かせたい見方・考え方を明確にする。(~に着目し, ~する。)

前単元

本単元の既習事項となる単元や考え方を明記する。

段階日付	学習活動(□)と児童生徒の反応(○)	学習を支える教師の働きかけ	評価・他教科
1	資料やその比べ方について単元の課題をつかむ ○どの組の記録がいいのか調べたい。 □各組の平均値を求めて比べる活動 ○最大値や最小値, 範囲の視点で資料をみる ○順序よく整理してもっと詳しく調べたい。	挿絵の吹き出しや各組の記録を提示し, 気づきを引き出す。 既習の平均値で比べることができないか 新しい視点で資料をみるとどうなるか (用) 最大値, 最小値, 範囲	知技① 体育(スポーツテスト)
2	ドットプロットについて知る。資料の特徴を見いだす。 □資料をドットプロットに表す ○ちらばりの様子を知りたい □ちらばりの様子を考察する活動 ○平均で比べたときと違う ○組によってちらばりかたが違う	順序よく記録を並べてちらばりの様子を調べて「比べてみたい」を引き出す。 最大値, 最小値, 範囲で比較した場合との違いを引き出す (用) ドットプロット	知技②
3	ドットプロットの考察から中央値や最頻値の意味を理解する □平均値を示しちらばりの様子を調べる活動 ○真ん中の記録はどこだろう ○ほかにも比べる方法があるのか知りたい。	ドットプロットをみて詳しくちらばりの違いに気づかせる 平均値とちらばりの様子を比べて真ん中の記録はどうなっているのかを引き出す。 (用) 中央値, 代表値, 最頻値	思判表① 態①
<p>「学習活動」の主体は児童生徒、「教師の働きかけ」は、児童生徒の気づきや「アウトプット」を引き出す発問、指示、提示、場の設定を「何のために」行うのか意図を明確にする。</p> <p>問題提示では、児童生徒からどのような「○○たい。」を引き出し、授業の終末では、次時につながる「○○たい」という新たな「問い」をどう引き出すか、その「問い」をどのようにつなげるかをデザインする。</p> <p>指導と評価の一体化を図るために「指導に生かす評価」「児童生徒の総括的な評価」をどのタイミング、どの方法で行うかを明記する。教材等で、他教科との関連がある場合は、教科間の繋がり(教科横断的な視点)を生かした指導を工夫する。</p>			
	○関連させて分かることはないかな 7・8統計的な問題解決について知り, 身の回りの課題解決に活かそうとする。		知技③ 態②

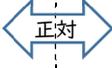
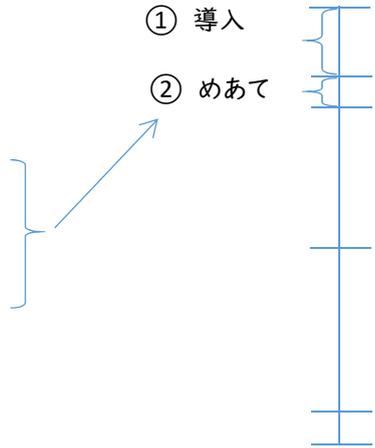
後単元

本単元が既習事項となる次単元などを明記する

単元名

(/) ← (本時/単元の総時数)

授業者:

1 本時のねらい	
	(評価場面方法) ※評価場面や方法等を記入しましょう
2 めあて、まとめ、振り返り	
(まとめ) ※ 「何を学んだか」を明確にしましょう。 子供の声をもとにまとめることをイメージして 記入しましょう。	(めあて) ※ まとめに正対し、子供の視点に立った 「めあて」にしましょう。
	
(振り返り) ※ 本時のねらいや単元の展開等から、子供たちから「引き出したい振り返り」を明確にしましょう。	
3 本時の展開	
※ 学習の流れや工夫点、留意点などを記入しましょう。 単元指導計画に基づき児童生徒の学習状況の見取りを設定しましょう。	
(例) ① 導入 ... 既習との違いを明確にする。 そのために本時の問題をまずはやらせてみる。 ② めあて ... 「あれ?」「できないよ」というつぶやきから、 9:46 頃 めあてを立てる。 ※ 困り感、違和感 → 「問い」 ・ ・ ※ 子供から引き出したいキーワード(板書する) ooo、△△△、□□□ ・ ⑥ 振り返り ... 今回は、次のような視点を与える。 10:20 頃 「自分がどこまでできるようになったのか」 「自分の学びを高めるために何が必要か」	(時間配分) 
4 板書レイアウト等	

5 授業の実際(板書) ※写真を添付

児童生徒の思考がどのように記され、関連付けられているのか。また、児童生徒の学びの過程が示され、児童生徒が「何を学んだか」「解決の過程が視覚化」されているかどうか児童生徒のノートを参照しながら振り返りましょう。

6 児童生徒のノート ※写真を添付

児童生徒が、授業で自らの学びをどのように記録し、自分の考えを思考力・判断力・表現力等を働かせ、どのように明らかにしていくか。また、自らの解決の過程を振り返り、「何ができるようになったのか」「次にどのようなことを学びたいか」など、自己の学びの評価ができたか

7 授業の振り返り

授業のねらいを達成するために、児童生徒がどの場面でどのような見方・考え方を働かせたかどうか。児童生徒の学びの姿をもとに、授業を振り返る。

8 これからの授業デザインに向けて

次の授業に向けて

単元プランシート

学校で育てたい資質・能力

学校第

学年

【単元名】

(時間扱い)

単元の目標

- (1)
- (2)
- (3)

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

働かせる見方・考え方:

単元構想

前単元



段階 日付	学習活動(□)と児童生徒の反応(○)	学習を支える教師の働きかけ	評価・他教科



後単元

単元名

(/)

授業者:

1 本時のねらい

(評価場面方法)

2 めあて、まとめ、振り返り

(まとめ)

(めあて)



(振り返り)

3 本時の展開

4 板書レイアウト等

授業後

5 授業の実際(板書) ※写真を添付

6 児童生徒のノート ※写真を添付

7 授業の振り返り

8 これからの授業デザインに向けて

授業における基本事項 振り返りシート

学校 氏名

支持的風土・学習環境

◎ … よくできている ○ … できている △ … あまりできていない

- 互いに認め合い、支え合う風土は醸成されているか。
- 学習環境(学習規律、言語環境、教室環境)は充実しているか。

記号

授業マネジメント

◎ … よくできている ○ … できている △ … あまりできていない

タイムマネジメント

- 授業開始・終了時刻は徹底されていたか。
- 簡潔な説明と的確な指示はできたか。

評価

めあて・まとめ・振り返り

- 身に付けさせたい力を踏まえた「めあて」の設定・提示はできたか。
- 「めあて」に正対した「まとめ」、「振り返り」はできたか。

評価

発問

- 学習のねらいに迫る意図的・計画的な発問はできたか。
- 思考を広げ、深める発問の工夫はできたか。

評価

思考力・判断力・表現力等

- 課題について自分自身の考えをもつ時間の確保はできたか。
- 学習のねらいの達成に向けた交流場面の設定はできたか。

評価

評価・改善

- 授業の展開に生かす評価(児童生徒の学習状況の見取り)はできたか。
- 指導計画に基づく評価場面の設定ができ、諸評価の確実な実施はできたか。
(診断的評価・形成的評価・総括的評価等)

評価

板書・ノート、1人1台端末

- 思考を整理し考えを深める構造的な板書・ノート指導はできたか。
- 1人1台端末の日常的・効果的な活用はできたか。

評価